
市川町景気動向調査

2021年4-6月期

市川町商工会

目 次

I. 調査要領.....	1
1. 調査目的.....	1
2. 全国および兵庫県の経済動向調査.....	1
3. 管内調査.....	1
II. 全国および兵庫県の経済動向.....	2
III. 管内調査結果.....	3
1. 売上高の状況.....	3
2. 採算（経常利益）の状況.....	5
3. 資金繰りの状況.....	7
4. 人材の状況.....	10
5. 業況の状況.....	14
6. 設備投資の実施状況.....	16
7. 最も優先すべき経営上の課題.....	17

1. 調査要領

1. 調査目的

管内の中小・小規模事業者の景気動向について、その実態を把握すると共に、全国及び兵庫県内の情勢との違いを把握する。

2. 全国および兵庫県の経済動向調査

全国及び兵庫県の景気動向指数、中小企業景況、住宅着工件数、有効求人倍率、倒産件数の動向について整理した。

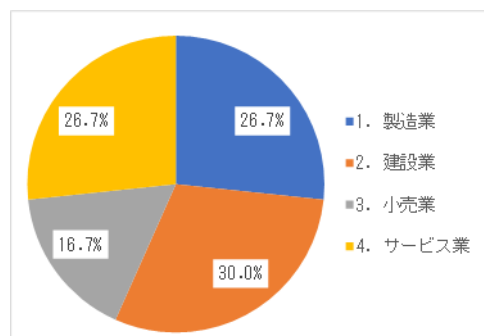
3. 管内調査

市川町商工会管轄内の企業を対象に、アンケート調査を実施した。

(1) 対象企業数…30 企業

〈内訳〉

製造業	8 社
建設業	9 社
小売業	5 社
サービス業	8 社



(2) 調査方法…商工会の職員による訪問面接調査

(3) 調査対象期間…2021年4月から6月の第1四半期を対象とした。

※指標について

本報告書のD Iとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目において増加・上昇・好転とした企業割合から、減少・低下・悪化とした企業割合を引いたものである。

II. 全国および兵庫県の経済動向

景気総合指数

兵庫県の先行指数と一致指数(R3.5)は、前月を下回った。遅行指数は前月を上回った。

	指数名	R3.3	R3.4	R3.5
兵庫県	先行	111.0	117.3	108.8
	一致	76.0	74.9	74.0
	遅行	88.7	89.3	91.2
全国	先行	102.4	103.8	102.6
	一致	92.9	95.3	92.7
	遅行	93.7	94.2	92.0

出所：「兵庫県の経済雇用情勢」

中小企業景況調査

兵庫県の中小企業の景況は悪化状況が続いているが、製造業ではマイナス幅が縮小している。

前期比（「好転」－「悪化」）構成比（％）

	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6
全産業	▲22.8	▲26.0	▲24.2
製造業	▲30.2	▲22.2	▲10.0
非製造業	▲21.3	▲27.3	▲29.8

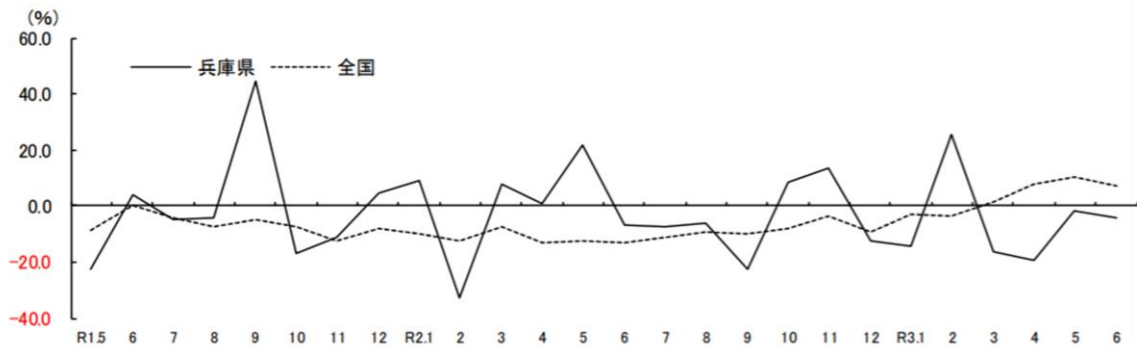
出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構

住宅着工件数

兵庫県の新設住宅着工戸数(R3.6)は、2カ月連続でマイナス一桁台となった。

	R3.4	R3.5	R3.6
戸数	2,620	2,245	2,597
前年度比(%)	▲19.4	▲1.8	▲4.4

新設住宅着工戸数増減率



出所：国土交通省

有効求人倍率

姫路管内の有効求人倍率（R3.6）は1.17倍、兵庫県では0.87倍となった。

	R3.6		
	姫路※	兵庫県	全国
有効求人倍率	1.17	0.87	1.06
新規求人数	3,659	28,328	796,732
前年度比(%)	9.7	1.3	5.4

※姫路市・宍粟市・たつの市・神崎郡・揖保郡を含む姫路ハローワーク管轄内

出所：厚生労働省、同兵庫労働局

倒産件数

兵庫県と全国の企業倒産件数は、R3年5月以外は前年同月を下回った。

		R3.4	R3.5	R3.6
兵庫県	件数	21	21	41
	前年度比(%)	▲51.2	+110.0	▲16.3
全国	件数	477	472	541
	前年度比(%)	▲35.8	+50.3	▲30.6

出所：(株)東京商工リサーチ

Ⅲ. 管内調査結果

1. 売上高の状況

(1) 売上高DI

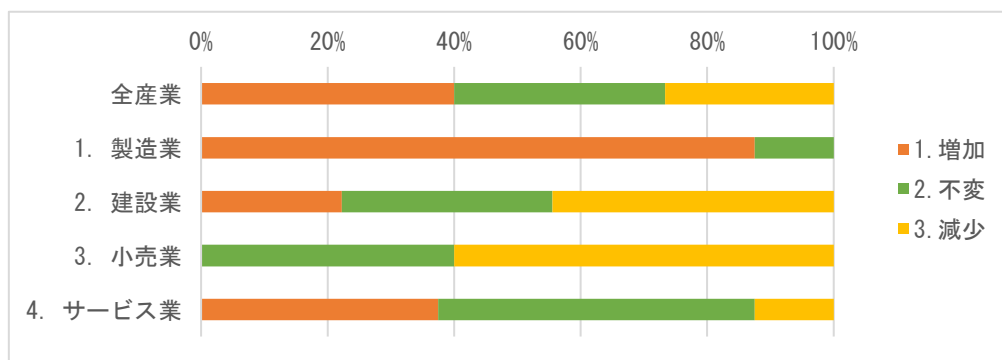
今期の全産業売上高DIは13.3となり、前期の▲3.3より16.6ポイント改善した。業種別では、製造業と小売業は改善したが、建設業では悪化した。サービス業は前期と同じ数値であった。

兵庫県や全国でも、全業種で数値が改善した。建設業の改善度合いが低い点は、市川町と傾向が同じである。

図表1. 業種別の売上高DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	12	10	8	30	40.0	33.3	26.7	13.3	▲10.9	▲17.9
1. 製造業	7	1	0	8	87.5	12.5	0.0	87.5	20.0	▲10.7
2. 建設業	2	3	4	9	22.2	33.3	44.4	▲22.2	▲15.4	▲14.8
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲60.0	▲39.6	▲27.5
4. サービス業	3	4	1	8	37.5	50.0	12.5	25.0	▲9.6	▲15.9



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	12	5	13	30	40.0	16.7	43.3	▲3.3	▲54.7	▲48.9
1. 製造業	4	2	2	8	50.0	25.0	25.0	25.0	▲57.8	▲45.6
2. 建設業	3	3	3	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲18.5	▲21.7
3. 小売業	0	0	5	5	0.0	0.0	100.0	▲100.0	▲60.5	▲50.2
4. サービス業	5	0	3	8	62.5	0.0	37.5	25.0	▲62.2	▲61.1

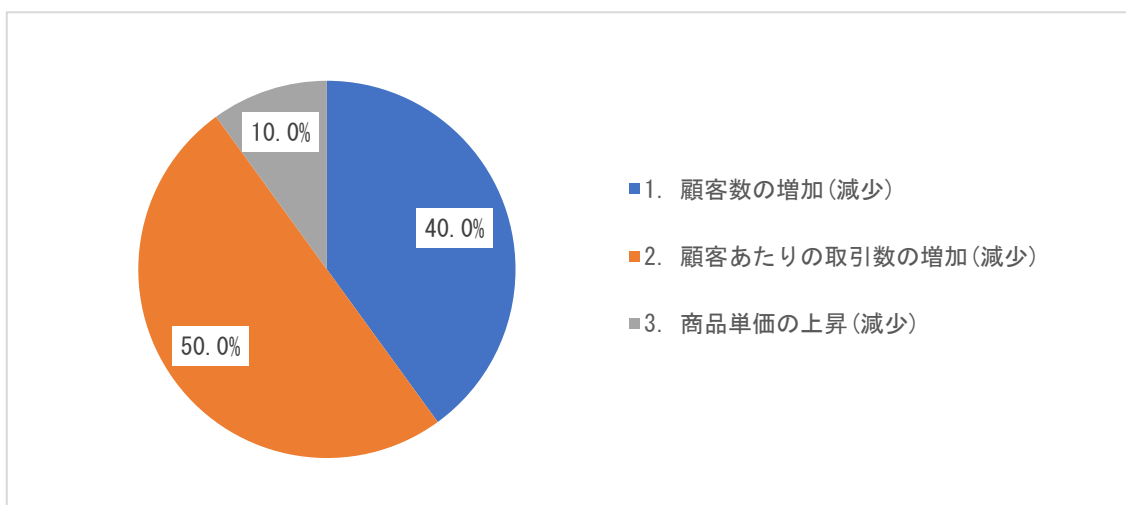
(2) 売上高が増加、または減少した理由

売上高が増減したと回答した事業所 20 所のうち、主な理由を「顧客数の増減」としたのは 4 割、「顧客あたりの取引数の増減」としたのは 5 割、「商品単価の上昇」としたのが 1 割であった。前期は顧客数を理由にした事業所が多かったのに対し、今期は割合が逆転し、取引数を理由とする事業所が多くなった。

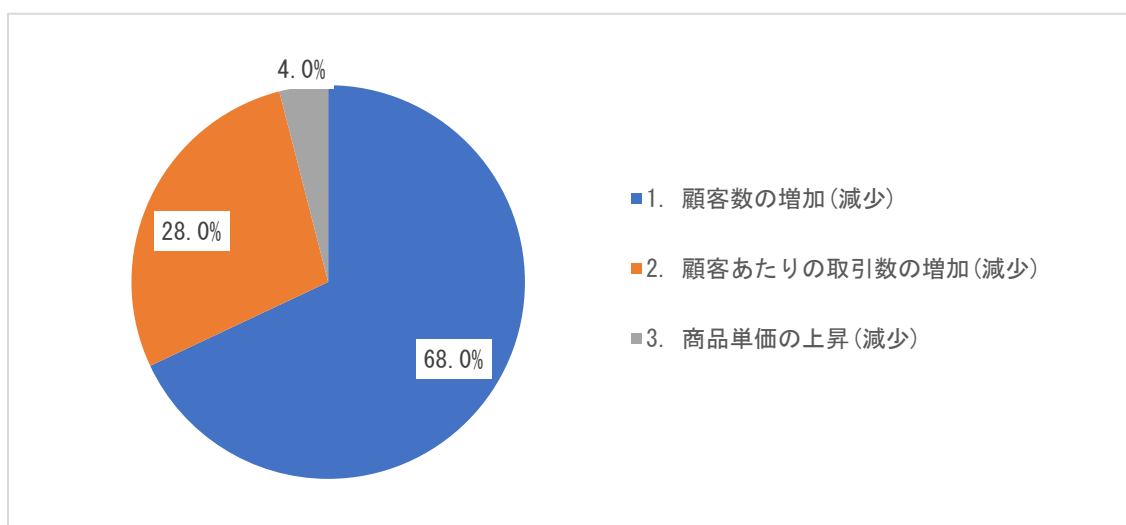
なお、売上高が増加した事業所は 12 所あり、増加理由は「顧客当たりの取引数の増加」58.3%、「顧客数の増加」33.3%、「商品単価の上昇」8.3%であった。

図表 2. 売上高増減の理由

【今期調査結果】



【参考：前期調査結果】



2. 採算（経常利益）の状況

(1) 採算DI

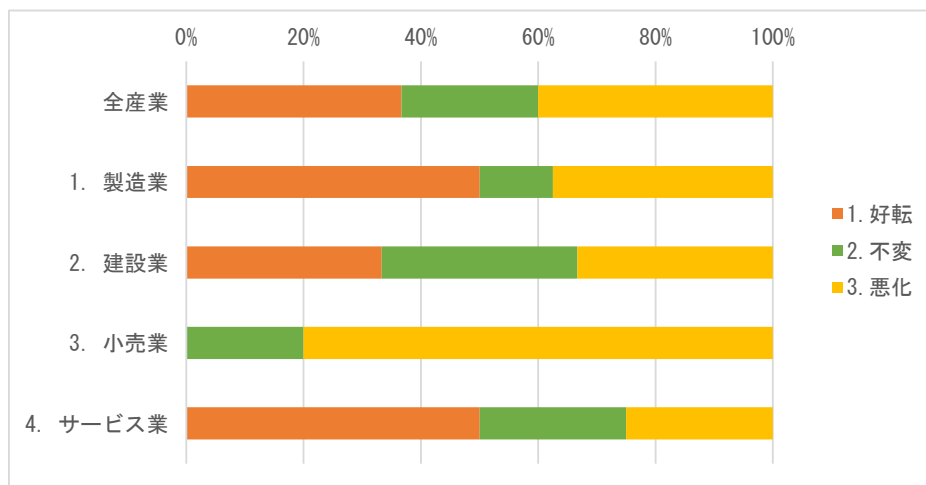
今期の全産業売上高DIは▲10.0となり、前期の▲3.3より悪化した。業種別に見ると、建設業では大きく悪化した。その他の業種では、前期から20ポイント以上回復した。

兵庫県と全国の数値は改善している。マイナス値の業種が多いものの、おおむね改善傾向である。ただし、兵庫県の建設業は前期より悪化している。

図表3 業種別の採算DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	9	9	12	30	30.0	30.0	40.0	▲10.0	▲22.9	▲28.3
1. 製造業	6	1	1	8	75.0	12.5	12.5	62.5	8.9	▲20.3
2. 建設業	0	4	5	9	0.0	44.4	55.6	▲55.6	▲30.8	▲19.9
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲60.0	▲41.6	▲36.8
4. サービス業	3	2	3	8	37.5	25.0	37.5	0.0	▲27.4	▲29.7



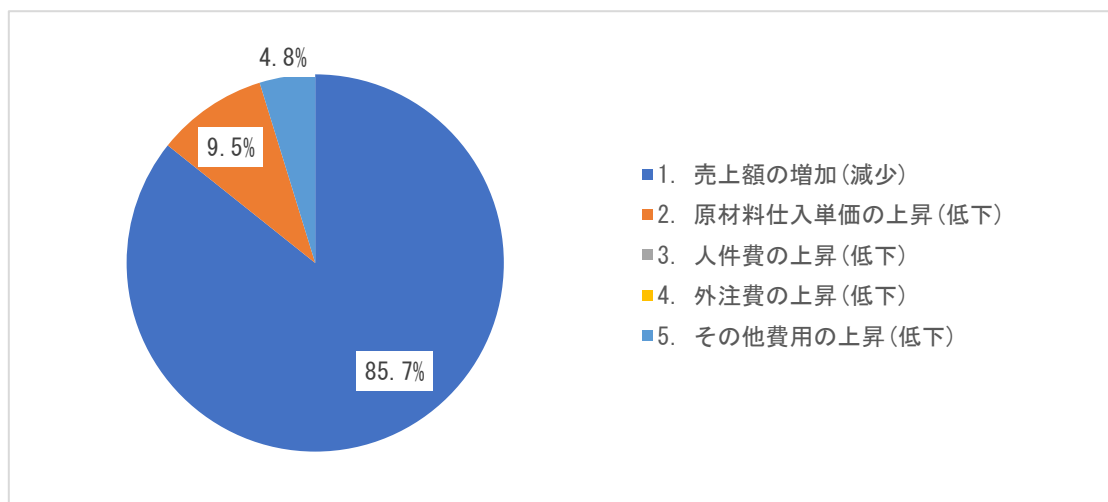
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	11	7	12	30	36.7	23.3	40.0	▲3.3	▲46.4	▲42.5
1. 製造業	4	1	3	8	50.0	12.5	37.5	12.5	▲49.0	▲39.4
2. 建設業	3	3	3	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲22.2	▲20.9
3. 小売業	0	1	4	5	0.0	20.0	80.0	▲80.0	▲43.6	▲43.5
4. サービス業	4	2	2	8	50.0	25.0	25.0	25.0	▲55.3	▲52.6

(2) 採算が好転、または悪化した理由

採算が好転、または悪化したと回答した事業所 21 所のうち、ほとんどがその理由を「売上高の増減」にあるとした。採算が好転した事業所は 9 所あり、全ての事業所で「売上額の増加」が理由であった。

図表 4. 採算好転悪化の理由



3. 資金繰りの状況

(1) 資金繰りDI

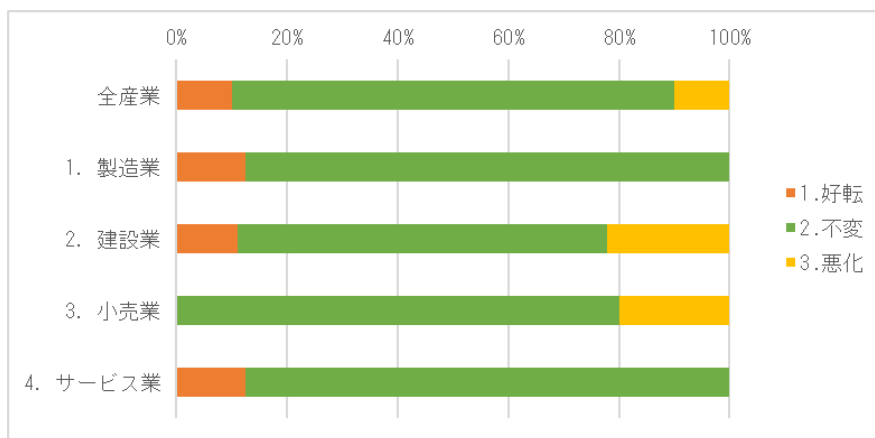
今期の全産業資金繰りDIは、ゼロとなった。業種別に見ると、建設業とサービス業の数値は悪化、小売業は維持、製造業はマイナスからプラスに転じた。

全国では全業種回復傾向、兵庫県では小売業とサービス業が回復傾向である。市川町の業種ごとの数値の傾向とは相関性が低く、事業所により状況が異なると推察される。

図表5. 業種別の資金繰りDI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	24	3	30	10.0	80.0	10.0	0.0	▲20.5	▲18.4
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲13.4	▲14.7
2. 建設業	1	6	2	9	11.1	66.7	22.2	▲11.1	▲23.1	▲3.5
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲20.0	▲12.5	▲23.6
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲29.6	▲22.9



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	6	18	6	30	20.0	60.0	20.0	0.0	▲22.2	▲28.4
1. 製造業	2	3	3	8	25.0	37.5	37.5	▲12.5	▲11.1	▲24.7
2. 建設業	2	5	2	9	22.2	55.6	22.2	0.0	▲14.8	▲9.2
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲20.0	▲14.6	▲27.6
4. サービス業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲36.5	▲39.0

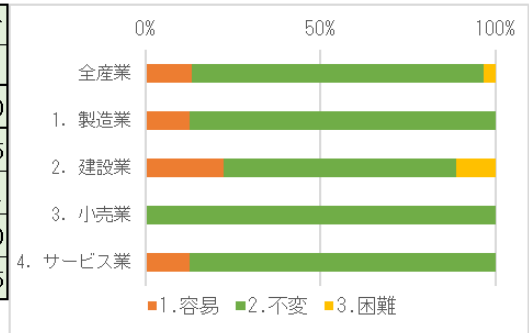
(2) 取引先からの資金回収

今期の全産業資金回収DIは10.0で、前期より10ポイント低下している。前期では、回収困難とする事業所数はなかったが、今期は1社増えた。

図表6. 業種別の資金回収DIの状況

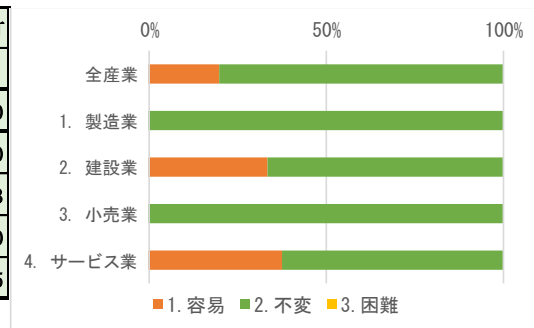
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	4	25	1	30	13.3	83.3	3.3	10.0
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5
2. 建設業	2	6	1	9	22.2	66.7	11.1	11.1
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	6	24	0	30	20.0	80.0	0.0	20.0
1. 製造業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0
2. 建設業	3	6	0	9	33.3	66.7	0.0	33.3
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	3	5	0	8	37.5	62.5	0.0	37.5



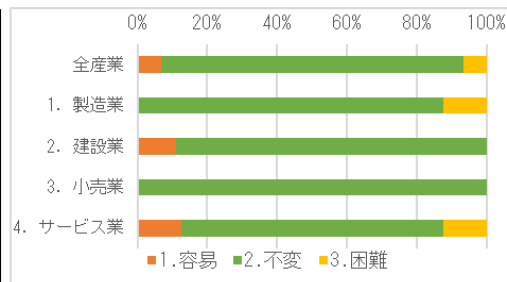
(3) 借入の容易さ

今期の全産業借入の容易さDIは0.0で、前期の6.7から悪化した。借入を「困難」とする事業所数は変わらなかったが、「容易」とする事業所が2社減った。

図表7. 業種別の借入DIの状況

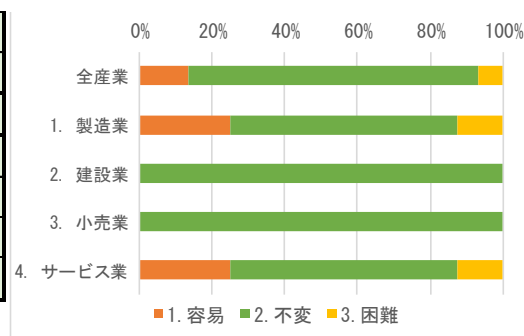
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	DI
全産業	2	26	2	30	6.7	86.7	6.7	0.0
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5
2. 建設業	1	8	0	9	11.1	88.9	0.0	11.1
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	DI
全産業	4	24	2	30	13.3	80.0	6.7	6.7
1. 製造業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5



4. 人材の状況

(1) 人材D I

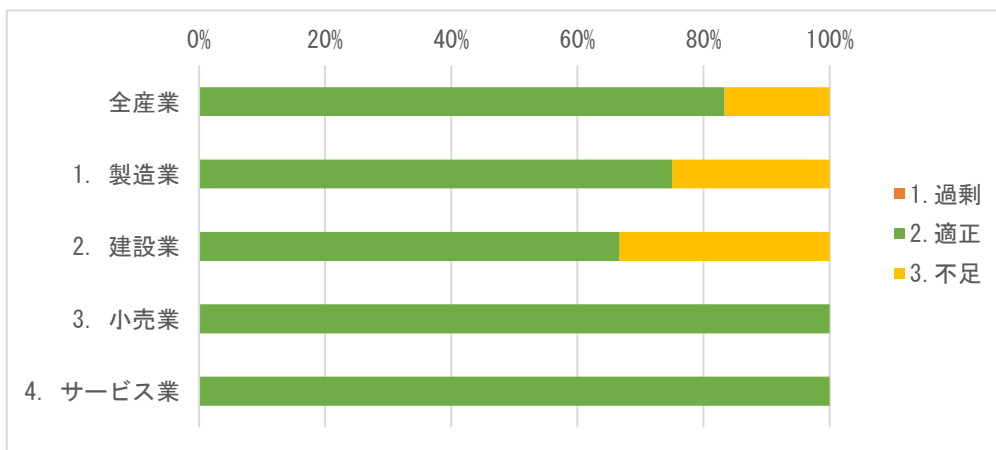
今期の全産業人材D Iは▲16.7と、前期の▲20.0からやや回復した。製造業と建設業では、引き続き人材不足である一方、サービス業の不足は解消した。

兵庫県や全国では、引き続き全ての業種で不足傾向となっている。業種別で比較すると、製造業と小売業では前期よりも数値が低下し、不足傾向が進んでいる。

図表8. 業種別人材D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	0	25	5	30	0.0	83.3	16.7	▲ 16.7	▲ 7.7	—
1. 製造業	0	6	2	8	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0	▲ 4.6	▲ 9.5
2. 建設業	0	6	3	9	0.0	66.7	33.3	▲ 33.3	▲ 20.9	▲ 28.4
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 9.3	▲ 8.2
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 4.3	▲ 7.2



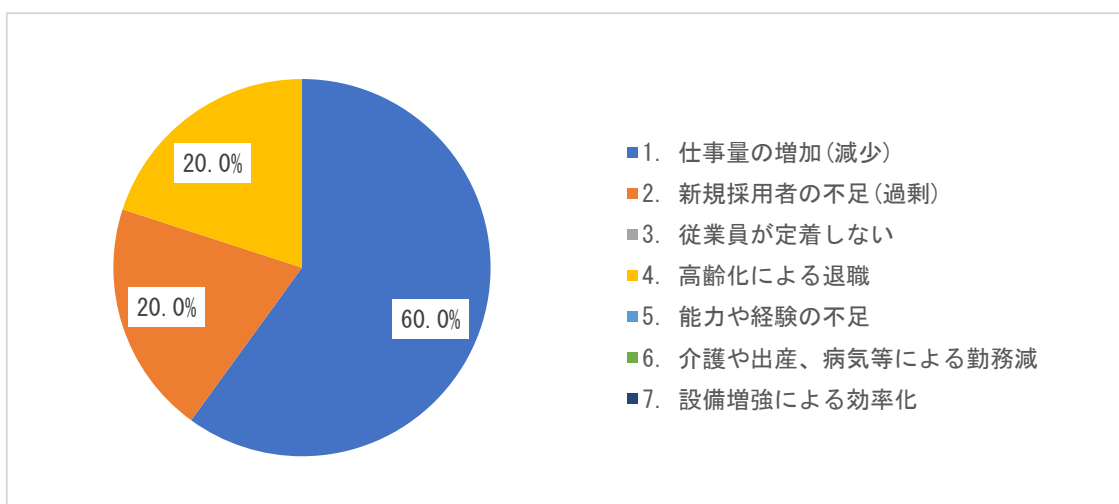
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	1	22	7	30	3.3	73.3	23.3	▲ 20.0	▲ 11.7	—
1. 製造業	0	6	2	8	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0	▲ 2.2	▲ 8.6
2. 建設業	0	5	4	9	0.0	55.6	44.4	▲ 44.4	▲ 36.0	▲ 30.0
3. 小売業	1	4	0	5	20.0	80.0	0.0	20.0	▲ 4.9	▲ 7.1
4. サービス業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5	▲ 13.2	▲ 7.4

(2) 人材が過剰又は不足の理由

人材に過不足があると回答した7所で、最も多かった理由は「仕事量の増減(60.0%)」であった。その他には、「新規採用者の過不足」「高齢化による退職」といった理由が挙げられた。

図表9. 人材過不足の理由



(3) 従業員数（含む臨時・パート）

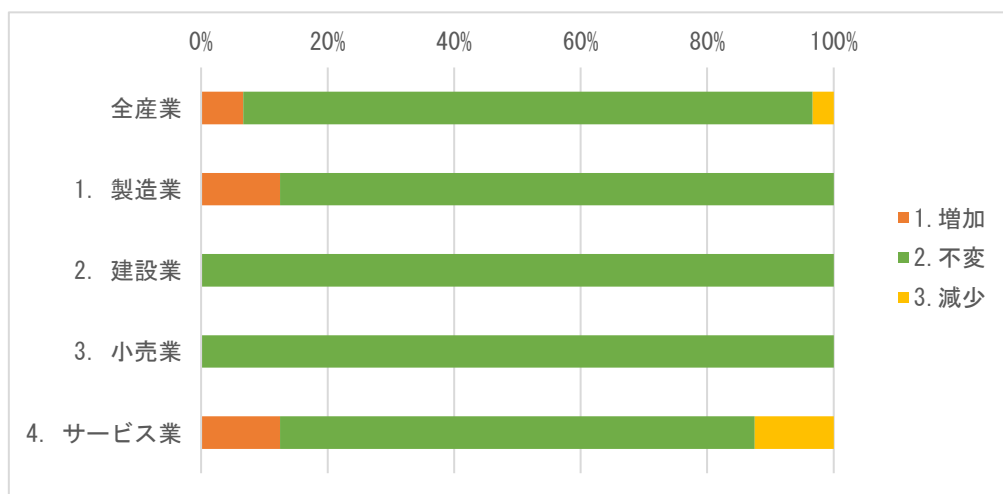
従業員数DIは、全業種でゼロまたはプラス値となっている。おおむね従業員数は不変傾向にある。

全国では、全ての業種でマイナス値だが前期よりも回復傾向である一方、兵庫県では、製造業と小売業のマイナス幅が広がった。

図表10. 業種別の従業員数DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	27	1	30	6.7	90.0	3.3	3.3	▲7.9	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲13.7	▲5.0
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0	▲4.3	▲3.7
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲4.7	▲4.4
4. サービス業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0	▲7.3	▲7.5



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	25	1	30	13.3	83.3	3.3	10.0	▲9.9	—
1. 製造業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5	▲8.9	▲10.4
2. 建設業	2	7	0	9	22.2	77.8	0.0	22.2	▲20.0	▲6.0
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲2.4	▲6.0
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲11.6	▲11.1

(4) 外部人材

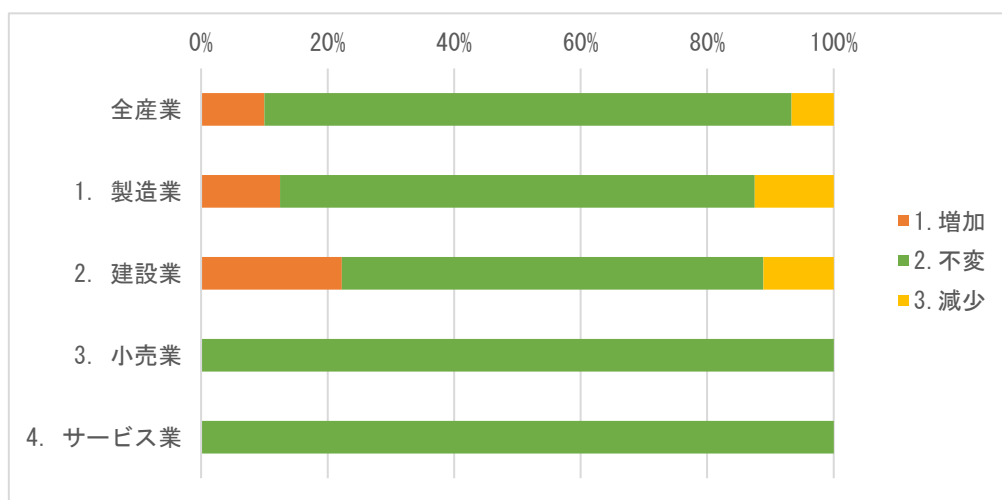
外部人材DIは、全産業でマイナスからプラスに転じた。製造業では▲37.5から0.0まで大きく回復した。それ以外の業種では、おおよそ前期並みであった。

兵庫県の小売業では、外部人材は減少傾向である。それ以外、全国と兵庫県ではマイナス幅が小さくなっている。

図表 1 1. 業種別の外部人材DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	3	25	2	30	10.0	83.3	6.7	3.3	▲5.8	—
1. 製造業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0	▲3.3	▲2.4
2. 建設業	2	6	1	9	22.2	66.7	11.1	11.1	▲4.4	▲3.7
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲13.3	▲4.2
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲3.7	▲5.8



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	1	25	3	29	3.4	86.2	10.3	▲6.9	▲9.4	—
1. 製造業	0	5	3	8	0.0	62.5	37.5	▲37.5	▲12.9	▲6.8
2. 建設業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲24.0	▲2.2
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	▲3.6
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲5.5	▲9.1

5. 業況の状況

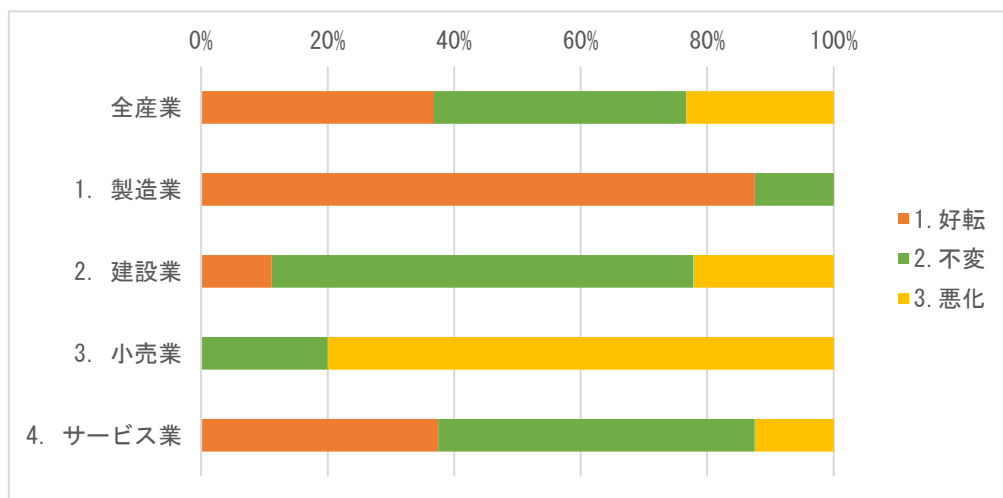
(1) 業況D I

今期の全業種業況D Iは+13.3で、前期の▲10.0より改善した。建設業は前期のプラスからマイナスに転じたが、他の3業種は回復傾向にある。製造業は大幅に改善している。兵庫県や全国でも、兵庫県の建設業以外は回復傾向にある。市川町でも建設業は前期から数値が低下しているが、兵庫県や全国と比較すると業況がやや良い。

図表12. 業種別の業況D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	11	12	7	30	36.7	40.0	23.3	13.3	▲19.8	—
1. 製造業	7	1	0	8	87.5	12.5	0.0	87.5	8.9	▲17.8
2. 建設業	1	6	2	9	11.1	66.7	22.2	▲11.1	▲11.5	▲14.8
3. 小売業	0	1	4	5	0.0	20.0	80.0	▲80.0	▲39.6	▲35.7
4. サービス業	3	4	1	8	37.5	50.0	12.5	25.0	▲27.4	▲29.5



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	8	11	11	30	26.7	36.7	36.7	▲10.0	▲43.3	—
1. 製造業	4	1	3	8	50.0	12.5	37.5	12.5	▲42.3	▲40.6
2. 建設業	3	4	2	9	33.3	44.4	22.2	11.1	▲11.1	▲16.0
3. 小売業	0	0	5	5	0.0	0.0	100.0	▲100.0	▲43.6	▲44.6
4. サービス業	1	6	1	8	12.5	75.0	12.5	0.0	▲55.3	▲55.9

(2) 業況判断の背景（自由回答）

これまで、新型コロナウイルス感染症に対しては、「売上・利益の低下」や「来店客の減少」「イベント中止」とマイナス要因として捉える回答が多かった。

しかし、今期は「コロナの影響が薄くなった」「ゴルフ需要が高まった」「田舎暮らし、移住希望者が増えている」と、プラス要因として捉える回答が増えた。

6. 設備投資の実施状況

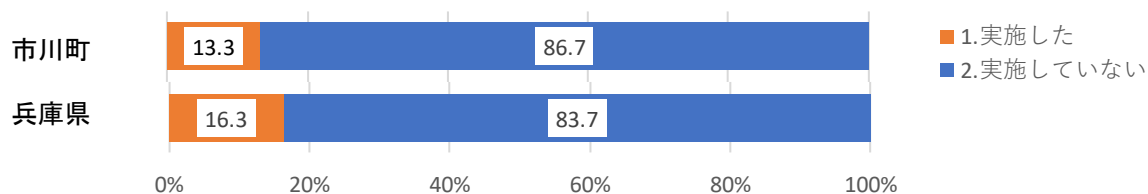
(1) 今期の設備投資

今期に設備投資した事業所は 13.3%であった。前回と比べてやや低下している。また、兵庫県の 16.3%に比べてやや少ない割合となった。

図表 1 3. 今期の設備投資実施状況

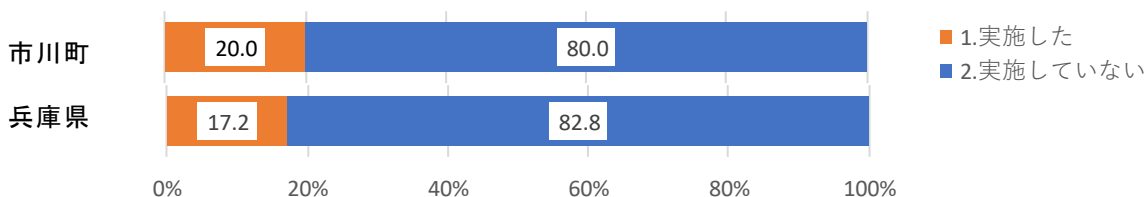
【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	4	26	30	13.3	86.7	16.3	83.7	—	—
1. 製造業	0	8	8	0.0	100.0	15.6	84.4	14.4	85.6
2. 建設業	1	8	9	11.1	88.9	15.4	84.6	20.0	80.0
3. 小売業	0	5	5	0.0	100.0	12.5	87.5	11.3	88.7
4. サービス業	3	5	8	37.5	62.5	17.8	82.2	16.2	83.8



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	6	24	30	20.0	80.0	17.2	82.8	—	—
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	13.3	86.7	15.1	84.9
2. 建設業	2	7	9	22.2	77.8	22.2	77.8	18.7	81.3
3. 小売業	0	5	5	0.0	100.0	10.4	89.6	11.2	88.8
4. サービス業	3	5	8	37.5	62.5	10.8	89.2	14.3	85.7



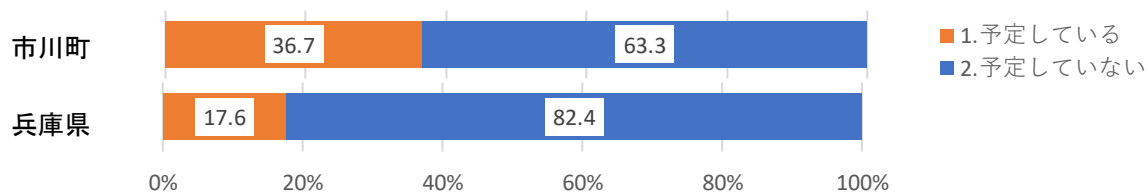
(2) 来期の設備投資

来期に設備投資を予定している事業所は36.7%で、前回同様の数値だった。兵庫県の17.6%と比較して、多い割合となった。

図表14. 来期の設備投資計画

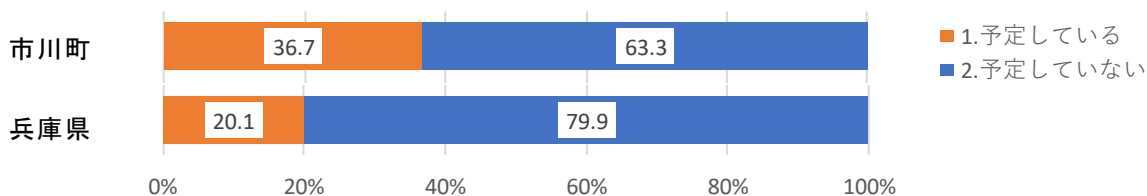
【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	11	19	30	36.7	63.3	17.6	82.4	—	—
1. 製造業	2	6	8	25.0	75.0	17.8	82.2	18.7	81.3
2. 建設業	3	6	9	33.3	66.7	11.5	88.5	17.7	82.3
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	14.6	85.4	12.5	87.5
4. サービス業	5	3	8	62.5	37.5	20.5	79.5	15.6	84.4



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	11	19	30	36.7	63.3	20.1	79.9	—	—
1. 製造業	2	6	8	25.0	75.0	20.0	80.0	18.2	81.8
2. 建設業	3	6	9	33.3	66.7	25.9	74.1	19.3	80.7
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	14.6	85.4	12.7	87.3
4. サービス業	5	3	8	62.5	37.5	21.6	78.4	15.0	85.0



7. 最も優先すべき経営上の課題

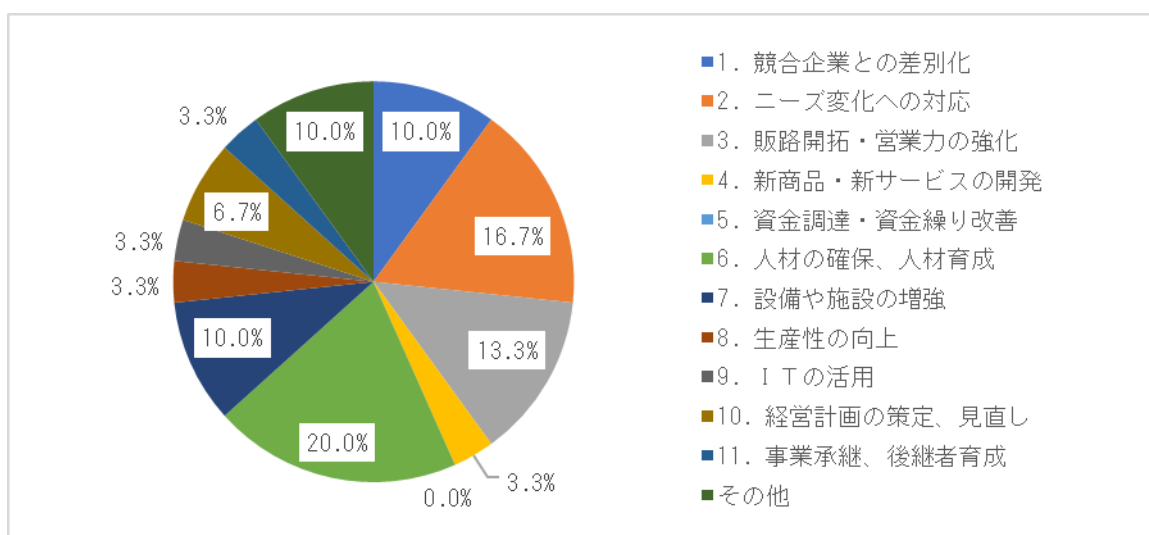
今期に最も優先すべき経営上の課題は、「人材の確保、人材育成」が20.0%と最も多かった。次いで、「ニーズ変化への対応」が16.7%、「販路開拓・営業力の強化」が13.3%と続く。

「その他」の回答として、「特になし」「経営者の健康」が挙げられた。

前期よりも売上や業況の回復傾向が見られたためか、「ニーズ変化への対応」よりも「人材の確保、人材育成」に問題の関心が移った。とはいえ、販路開拓・営業力の強化を問題点に感じる事業所も多い。

コロナ禍の影響が減ったと感じる事業所が多くなっているため、今後も人材採用や育成、市場環境や顧客ニーズに柔軟に対応できるような支援が求められる。

図表15. 経営上の課題



【参考資料】 自由記述回答

問 3-13 業況判断の背景について、貴社が感じておられることをお書きください。

去年と比べるとあまり変わっていないというだけで、低水準での不変なので、苦しいことには変わりない。

コロナ

人材不足

コロナの影響が薄くなった

世の中の変化により良いものを長い間使うのではなく使い捨てになっており、良いもののよさが認識されず、なかなか売れない。

時期的に今は公共工事が少ないが、町の工事がある。

コロナによるゴルフプレーの増加

今はゴルフブームがきていて、コロナの影響が良い方に受けているが、この状況が続くかは不安
ゴルフの重要が高まった事と、前年同期が非常に悪かった

新製品の受注

材料の仕入単価の上昇が続いている。

外出自粛の影響が続いている

コロナがあるなか、田舎暮らしや移住希望の方が増えてきていいながれになっている

偶然

昨年同月と比較すると売上は増加傾向である

個人からの受注が減少している

問 4 その他、地域の景況についてや商工会へのご意見ご要望など、ご自由にお書きください。

市川町のために、これからもよろしく願いいたします。

請求書など、パソコンによる帳票サービス等が増えてきて少し戸惑いを感じている

前回のようなプロゴルファーとのコラボを希望

特になし

なし

いつも応援いただき心から感謝です！

稼働が止まっているので半導体の受注が今後減るかもしれない